令和３年３月２日
循環社会推進課

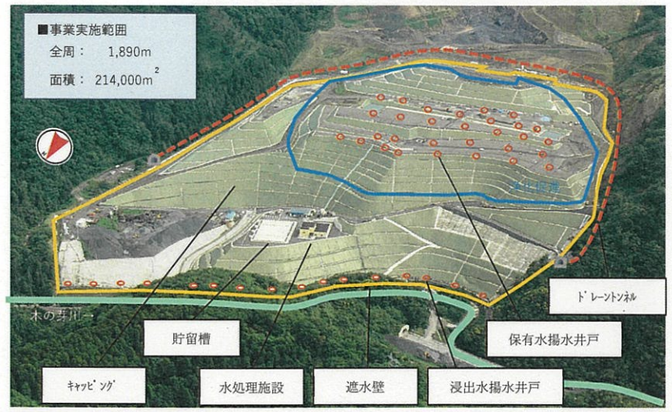
資料１

敦賀市民間最終処分場の抜本対策事業の内容と評価について

１ 抜本対策事業の概要

・平成 18 年から、遮水壁、揚水井戸および水処理施設等を設置し、①浸出水の木の芽川への流出防止対策、②浸出水量の低減対策、③浄化対策の抜本対策事業を進めている［図１，２、表］
（特措法に基づく国の財政支援は令和４年度まで）

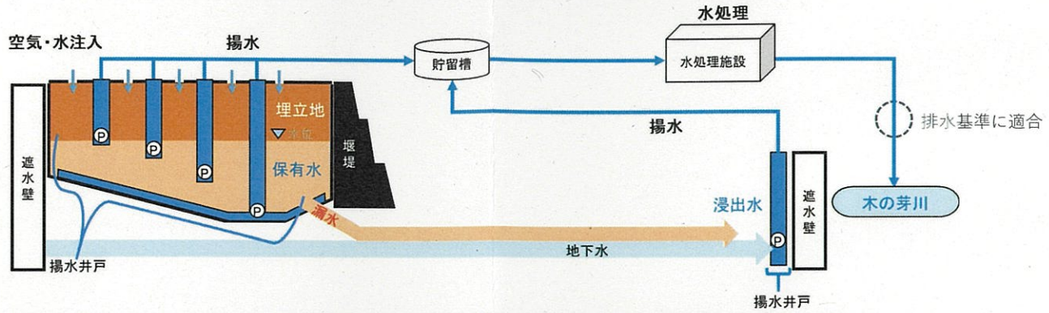
［図１］処分場全景



［表］事業の実施経過

実施内容 (年度)	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
・遮水壁、揚水井戸等の設置			■	■	■	■	■									
・水処理		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
・空気や水の注入による廃棄物の浄化促進					■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■

［図２］抜本対策事業の概要
（イメージ図）



２ これまでの抜本対策の内容と評価

① 浸出水の木の芽川への流出防止対策

・処分場北側(木の芽川沿い)に遮水壁を設置、処分場内に水処理施設を設置し、遮水壁内側で揚水した浸出水を水処理

⇒ 環境モニタリングの結果から、木の芽川への処分場の影響は認められず、浸出水の流出が防止されている［図２］

② 浸出水量の低減対策

・処分場南、東、西側に、遮水壁やドレーントンネルを設置
・処分場表面部にキャッピングを施工

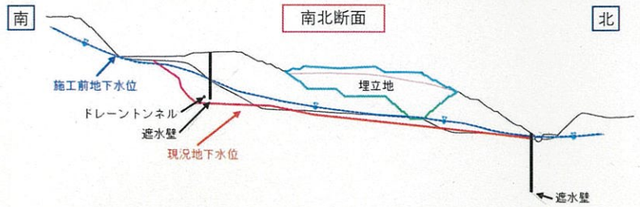
⇒ 地下水や雨水の流入が抑制されていることにより、遮水壁内側の地下水位は低い状態が維持され、浸出水量は低減されている［図３］

③ 浄化対策

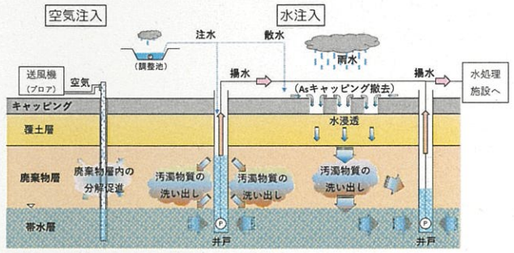
・揚水井戸の設置による保有水の揚水および水処理
・埋立地への空気や水の注入による廃棄物の分解や洗い出し［図４］

⇒ 保有水（等量混合）※の水質が排水基準以下まで低下してきているが、基準値付近で変動しており、再び基準を超える懸念がある［図５，６］ ※ 揚水井戸の保有水を等量混合したもの

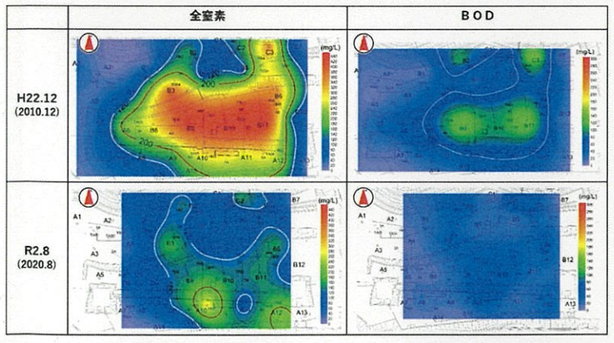
［図３］遮水壁等設置前後の地下水位（水位断面図）



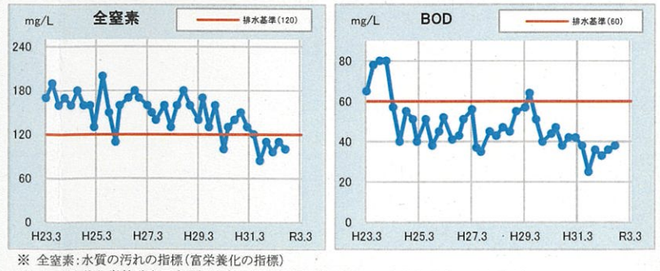
［図４］空気や水の注入による廃棄物の浄化促進



［図５］水質（全窒素・BOD 濃度）の分布



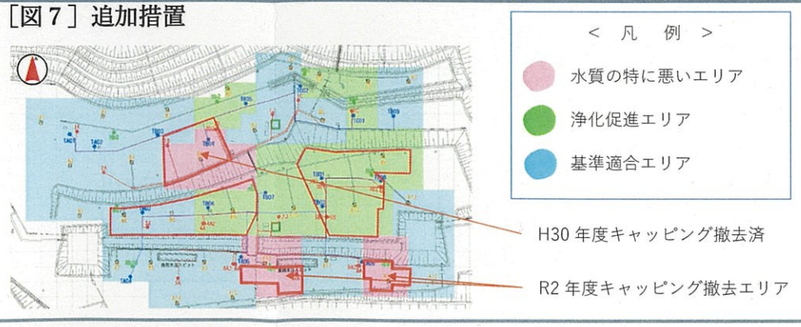
［図６］保有水（等量混合）の水質の推移



※ 全窒素：水質の汚れの指標（富栄養化の指標）
※ BOD（生物化学的酸素要求量）：水質の汚れの指標（値が高いと、有機物が多いことを示す）

３ 今後の対応

・これまでの対策により、埋立地全体としておおむね順調に浄化は進んでいるが、保有水（等量混合）の水質が基準値付近で変動しており、再び基準を超える懸念がある
・このことから、特措法期限に向けて、水質の特に悪いエリアへの水注入増加による追加措置を行い、効果を確認しながら今後の対策について検討する

＜追加措置＞
・水質の特に悪い３エリアのうち、令和２年度中に２エリアのキャッピングを撤去する［図７］

［図７］追加措置